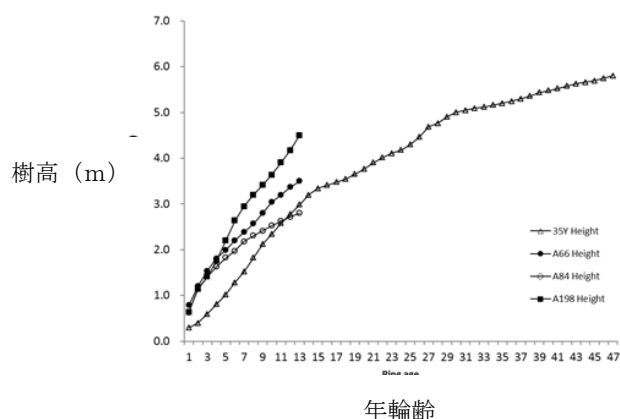


あきた白神の森倶楽部は秋田県林業育成協会とともに、当甘肅省での緑化活動に取り組んでいる団体です。日中緑化交流基金だより No13 で、現地の成長量等の調査結果を論文として学会誌等に報告する予定であると紹介しましたが、このたび中国の学術雑誌に投稿したところ、干旱区研究 (ARID ZONE RESEARCH) に論文が受理され、第 34 巻第 4 期号 (2017 年 7 月) に掲載されました。

論文は、秋田県林業育成協会が蘭州市七里河区で緑化事業を行った場所と七里河区行程指揮部が管理する 30 年生の植栽地を試験地として、同協会とあきた白神の森倶楽部が成長量調査と成長解析を実施したものです。論文では、試験地の調査と成長解析の結果から、蘭州市では灌水を適切に行っていれば側柏は年間樹高成長で 0.2m 程度、肥大成長 (地際直径) で 0.5cm 程度の成長を続けることが確認されたことなどを報告しています。



解析木の樹高成長経過の概要

秋田県林業育成協会の事業開始から 15 年が経過し、昨年、秋田県は甘肅省との友好提携が 35 周年を迎えました。この間秋田県からは高校生を始めとする人々が甘肅省の人々と中国の砂漠緑化の必要性について共通の認識を持ちながら交流を行ってきました。また、甘肅省の南北両山緑化工程指揮部の技術者が秋田県の研究機関や育苗機関で技術研修を行い、技術力の向上に関する努力も行ってきました。

今回、本基金を活用した緑化事業地での植栽木の成長についてこのような解析ができたのは、現地の技術者が秋田県での研修の成果を生かし、現地で科学的な調査を続けてきたことの成果であり、15 年間の日中双方の取り組みが真摯に行われてきた結果であることを示しています。

また当団体では、同市西部の泰州区で 2017 年から 3 年間の計画で緑化事業を開始しており、全体計画では、コノテガシワ (側柏)、崑山松、油松、ニセアカシア等を初年度は、67ha

に 22 万 4 千本、2 年目は 24ha に 7 万 7 千本、3 年目は 20ha に 6 万 6 千本を植える計画です。今年 8 月に天水市を訪問し、現地のカウンターパートとの打ち合わせを行いました。スタッフの技術力は高く、事業地の住民が森林の保護に対する意識を強化することにより、緑の生態保護や自然との調和理念を強化し、住民の居住環境も良くなるという効果を期待して、事業に取り組んで行くことを確認したところです。



成長量調査の様子



現地での打ち合わせの様子